

学校名	北広島町立大朝中学校
校長名	迫 広 淑 文
所在地	山県郡北広島町大朝4 6 8 3 - 1
H P	http://www.ooasa-j.hiroshima-c.ed.jp/
学級数	4学 級
タイプ	○ .

1 研究の概要

(1) 研究主題

「日々の様々な体験を通して考えたことや感じたことを、論理的に豊かに表現し、分かりやすいことばで伝え合う力を育てる。」

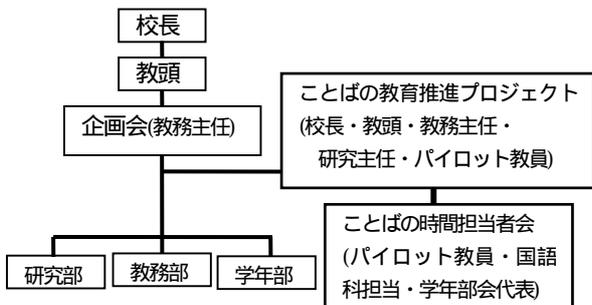
(2) 研究のねらい

体験したことを深く考えたり、自分を見つめたり、自分の思いや感じたことについて論理的に筋道を立てて、相手によく分かるように表現したりする等の「ことばの力」は、お互いの望ましいコミュニケーションを図っていくためには欠かせないものである。また、そのような「ことばの力」を身につけさせることは、「確かな学力」や「豊かな心」を育てていく上でたいへん重要である。

本校生徒の実態を見ると、明るい元気のよい挨拶や笑顔での会話はできているが、生徒一人一人が発する言葉は、単語や思いつきのことばであったり、結論が分からなかったり、筋道が通っていなかったりするなどの場面も多く、自分の考えや思いを論理的に表現していくことは不得手である。

そこで、言語技術の習得させ、日々の様々な体験を通して考えたことや感じたことを表現する場の工夫をすることによって、表現力や伝え合う力を高めていきたいと考える。

(3) 研究組織・体制



ことばの教育推進プロジェクト

- ・全教科、領域等での「ことばの教育」の推進
- ・「ことばの時間」の運営について検討、協議
- ・「言語技術」の手法を全教育活動への活用に係る研究の推進

ことばの時間担当者会

- ・「ことばの時間」の指導計画、指導内容、評価等の検討と授業(TT)の実施

2 2年間の取組みの概要

(1) 研究内容

論理的に豊かに表現し、分かりやすいことばで伝え合う力を育てるための言語技術指導のあり方
「言語技術」の手法の授業や日常生活への活用についての研究

(2) 具体的取組み

全学年週1時間の「ことばの時間」の実施

- ア 指導形態 パイロット教員とのTT指導
- イ 授業内容 「問答ゲーム」「再話」「描写・説明」「絵の分析」「自作教材」の繰り返し指導

校内研修の充実及び近隣校への普及

- ア 演習や模擬授業を中心とした校内研修の計画実施
- イ 小中合同(大朝ブロック内)の研修会の実施
- ウ 小中連携による公開研究会の実施



大朝ブロックの3校の小学校の先生と合同で学習展開を考え模擬授業を実施

各教科での授業における指導方法の工夫と改善

- ア 「言語技術」を効果的に活用した発表、読解や作文の技術の習得させる。
- イ 思考を要する発問を増やし、発問に対する生徒の回答は可能な限り、その根拠(理由)を求める。
- ウ 定期テストの記述問題に「言語技術」の活用することを意識させ、評価の観点を明らかにする。

表現活動の場の設定

- ア 総合的な学習の時間(「地域と共に生きる」)での体験・実践的学習をまとめプレゼンテーション
 - イ 新聞「意見の広場」等への積極的投稿
- 「キャリア教育」とのリンク
- ア 「プロの技に学ぶ」時間を特設し、仕事の意義や「ことばの力」の重要性等について学ぶ。
 - ・中国新聞社広島北支局長 「新聞作りを通して」
 - ・テレビ新広島アナウンサー「アナウンサーとして」
 - ・中国新聞広島製作センター見学(1年生)
 - イ 職員室への出入り、来客者等への礼儀・挨拶等の徹底する。



職員室へ入室するときは、立ち止まって挨拶 どの先生に 何の用件かはっきり大きな声で話す。

ことばの環境づくりの整備

- ア 「ことばのコーナー」の設置
 - ・「ことばの時間」での学習内容や生徒の作品、ことばに関する書籍、ポスターなど掲示・展示
- イ 「新聞閲覧コーナー」の設置
 - ・NIEの指定を受け、4か月間毎日7社の新聞を比較閲覧できる。



保護者・地域への啓発

- ア PTA集会、「ことばの時間」の授業参観やホームページへの掲載による啓発

イ 新聞等への生徒作品の積極的応募

<生徒の作品>より

かけがえのない友は私の宝物だ(一部抜粋)
 あなたにとって友だちとは何ですか。私にとって友だちは宝物です。いつもそばにいてくれ、泣くと一緒に泣いてくれ、笑うと一緒に大笑いしてくれる。悲しい時は半分持って気持ちを軽くしてくれ、楽しい時は2倍楽しくしてくれるのです。友だちの一人ひとりが私の宝物です。でも、そんなことを思ったのは中学生活が残り1年を切った最近です。みんなそれぞれ違う学校に進学する。知らない人がたくさんいる学校に行くことになる。そんなことを思ったとき、「私にとって友だちとは」と考えたのです。

(3) 取組みの検証

「ことばの教育」に関する調査結果の分析(県教育委員会作成及び本校独自のもの)

様々な表現活動場面での表現力の分析

定着度調査(定期テスト・CRT検査等)の分析

3 研究の成果と課題

(1) 成果

生徒は、「言語技術」を習得し、活用しようとしたか?

<「ことばの教育」についてのアンケート(本校作成)>より

(質問)「ことばの時間」に学習したことで、気づいたことを書いてください。(平成17年12月実施一部抜粋)

- ・相手の話を、「ことばの時間」で学習したように聞けば、授業なども分かりやすくなることに気付いた。
- ・質問に答えるとき、ナンバーリングを使えば自分の言いたい事も整理しながら言えるし、聞いている人も分かりやすいんだなあと思いました。
- ・自分の説明が、わかりにくいことに気付いた。
- ・根拠や理由をもって話すようになった。
- ・大きいものから小さいものをという順序で話せるようになった。

ア 生徒は、内容を整理し、順序立てて文章を書くことや、説明ができるようになってきた。

イ 生徒は、いろいろな見方や考え方、表現方法があることに気づいてきた。

ウ 生徒は、なぜその答になるのか、理由をつける(考える)ようになってきており、思考する場面が増えてきた。生徒の「根拠に基づいて答えなければ・・・」という意識も高まり、発表の際の単語での表現が減ってきた。

エ 「ことばの時間」に対して多くの生徒は肯定的評価をしており、学習したことを、授業や生活の具体的な場面で意識して使おうとしていた。

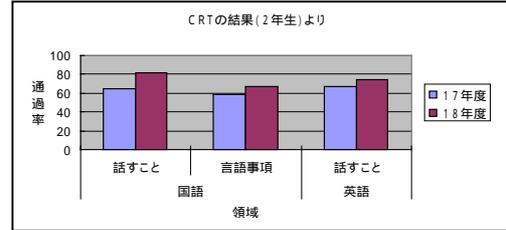
オ 書く活動を設定することで、生徒は相手によりよく伝える技術を身につけた上で、論理的に書くことができるようになってきた。小論文を書く際にも、言語技術が生かされた。

生徒の学力は向上したか?

基礎・基本学力調査における国語「読むこと」「言語事項」の2領域、英語「読むこと」「書くこと」の2領域において通過率が向上した。

教科・領域	平成16年度	平成17年度	平成18年度
国語 読むこと	60.5%	69.6%	78.6%
国語 言語事項	76.3%	83.0%	89.3%
英語 読むこと	75.6%	84.9%	85.7%
英語 書くこと	65.8%	84.8%	91.4%

CRTにおいては、国語の「話す・聞くこと」「読むこと」の2領域で、英語においては「話すこと」で通過率が向上した。



生徒のコミュニケーション能力は高まったか?

ア 「ことばの時間」に学んだ技能(主語、結論、根拠、ナンバーリングなど)を日常生活の様々な場面(職員室への出入り、入試の面接練習、生徒会役員選挙の立会演説など)で生かすようになった。

イ 話し方の手法が定着し、聞き手が聞き取りやすくなり、人の話をしっかり聞くようになってきた。

ウ 日々の授業での話し合いや公開研究会でのパネルディスカッションなどがスムーズに行えるようになってきた。

<公開研究会における地域の方の意見>より

「ことば」に取組む事はとても大切なことだと感じました。道徳の授業で、少数派の生徒も堂々と発言できる学級集団であることはすばらしいと思いました。違う見解にも耳を傾け受容し多様な意見の交流によって考えに幅が生まれ、人間的厚みになっていくのでしょうか。パネルディスカッションも私たち大人が思っている以上に、今を分析し課題をとらえていました。

教師の指導力は向上したか?

<広島県「ことばの教育」に関する教職員意識調査>より

項目	基準 実施月	基準			
		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
理由や根拠を問うことを大切にしている	17年 9月	40%	60%	0%	0%
	17年12月	40%	60%	0%	0%
	19年 1月	45%	55%	0%	0%
ねらいに応じた問いかけをしている	17年 9月	10%	70%	20%	0%
	17年12月	30%	70%	0%	0%
	19年 1月	18%	82%	0%	0%
構成を考えて話している	17年 9月	0%	90%	10%	0%
	17年12月	10%	90%	0%	0%
	19年 1月	45%	55%	0%	0%

ア 授業の中に、思考する場面や話し合い活動を入れるようになってきた。

イ 発言のモデルが示されたことにより、全教職員が歩調を合わせて(話す・聞くを意識して)指導できた。

ウ 教師自身の言語活動や生徒の表現活動の様子に意識が向くようになり、きめ細かい指導ができた。

エ 「ことばの教育」を核にして小中連携による研修と連携授業を行うことができた。

(2) 課題

各教科の授業における『言語技術』の活用の拡大・充実を図る。

各教科について『論理的思考力・表現力』の向上に関する分析と検証をする。(「基礎・基本」定着学習状況調査、全国学力学習状況調査等の活用)